

I - I S E F の結果について

宇宙開発戦略推進事務局

3月3日（土）に開催された「第2回国際宇宙探査フォーラム（I S E F 2）」のサイドイベントの一つとして、3月2日（金）にウェスティンホテル東京において、宇宙探査事業における将来ビジョンの共有、実現可能なビジネスとしての宇宙探査市場の拡大、非宇宙系産業界やベンチャー企業のための宇宙探査ビジネスへの参入機会の議論や、各国政府関係者、事業者、起業家や投資家、その他ステークホルダー間のネットワーク形成機会の提供することを目的として開催。

各パネルにおいては以下のコメントが出され、I S E F 2 にパネル4のモデレーターから報告。

- パネル1 社会経済学・未来学の見地から見た宇宙探査産業の意義
 - ・宇宙はイノベーションの場
 - ・宇宙探査におけるテーマを設けることが重要
 - ・協調と競争が必要
 - ・宇宙分野を「退屈なこと（普通のこと）」にすべき
- パネル2 先行プレイヤーによる宇宙探査の産業創出のこれから
 - ・政府機関は深宇宙への輸送に関し重要な役割を有している
 - ・条約、法律、標準化が必要
- パネル3 様々な産業領域の企業の参入による産業の拡大の可能性
 - ・非宇宙の企業が宇宙探査について議論する必要性
 - ・技術的インパクトを示すことによる認識向上
 - ・技術の標準化および大量生産が産業界の参入のために必要
 - ・地球／月／火星に関し、将来の研究開発とビジネスの間の差異／同質性を明らかにすべき
- パネル4 宇宙探査の産業化のための政府機関の意義・役割
 - ・宇宙探査の各要素において幅広いエコシステムが必要
 - ・新規参入者の涵養、インセンティブの付与
 - ・宇宙探査分野への投資の拡大
 - ・I S S 成功の経験を基にした、月／火星に関するPPP・国際協力の発展

国内外から、産業界、行政機関、宇宙機関等の幅広い分野から500名以上が参加。40社以上の展示。

セッション名	登壇者
開会挨拶	文部科学省水落副大臣
基調講演	経済産業省平木大臣政務官 Chilton 米ボーイング社上級副社長
パネル1 (2030年代の社会経済とイノベーション)	Cahan 米アーバンロジック社代表取締役 Marquez 米 Andart Global 社パートナー 茂木健一郎 ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー 落合洋一 ヒューマン・テクノロジーズ株式会社代表取締役 富山和彦 株式会社経営共創基盤CEO Woerner 欧州宇宙機関(ESA)長官 夏野 剛 慶応大学特別招聘教授 他
プレゼンテーション	Sirangelo 米 Sierra Nevada 社執行副社長
パネル2 (月面・小惑星における産業と経済効果)	Chambers 米 Lockheed Martin 社 袴田武史 株式会社 ispace 代表取締役 Agata 仏アリアングループ Lewis 米 NanoRacks 社CTO Provera 仏 Thales Alenia 社 Ochinero SpaceX 社シニア・ディレクター 小笠原宏 三菱重工業副事業部長 Anderson 米 Space Angels 社CEO
ランチセッション	有人宇宙システム株式会社、エアバス社、他
Y-ISEFレポート	Y-ISEF優勝チーム
パネル3 (様々な産業領域から見た宇宙探査の可能性)	深堀昂 ANAホールディングス 細井純一 資生堂 Mankins オーストラリア Moon Village Association 副代表 小野島一 大林組 Rush 米 Made In Space 社代表取締役 作尾徹也 ミサワホーム 菅原潤一 Spiber 株式会社 渡辺公貴 タカラトミー 梅澤高明 A.T.カーニー日本法人会長
パネル4 (宇宙探査ビジネス拡大に向けた政策)	Al Ahabbi UAE宇宙機関長官 Battiston 伊宇宙機関(ASI)総裁 Diwakar 印宇宙機関(ISRO)科学顧問 Ehrenfreund 独宇宙機関(DLR)長官 GROTZ ルクセンブルク経済省局長 Lightfoot 米NASA長官代行 Sandrone 仏 Airbus Defence and Space 社副社長 山川宏 内閣府宇宙政策委員会委員 角南篤 政策研究大学院大学教授
閉会挨拶	内閣府あかま副大臣